

# 鳥羽シアワセ研究所

vol.2

企画経営室 ☎(25) 1101

(地域活性化起業人 難波潤史)

人口が大きく減少する二〇四〇年に向けて、より強化していくべきまちづくりの方向性として、今回は『地域共生社会』の柱の一つ「豊かに暮らせる」たくさん稼げるまち」について考えてみます。



今夏、答志を訪れたときの写真。朝は、漁船の出航する音で目覚めました。

わかりやすく地域が活性化する姿とは、地域の経済が活性化すること。福祉・医療・教育など市民生活を豊かにする活動を支えるのは経済的な安心感があつてこそだと思います。

市の主要な産業である観光業と漁業の視点から見て

みましよう。

観光業ではコロナ禍前の令和元年の鳥羽市観光入込客数は約420万人。令和元年の鳥羽市人口が約1万8500人ですから、市民一人あたり227人の観光客を受け入れていました。日本を代表するおもてなしのまち、京都市の同年の観光入込客数は5352万人。受け入れる京都市民が147万人ですから市民一人あたり36人をもてなした計算となります。おわかりでしょうか。なんと鳥羽市はあの京都市の6倍以上の「おもてなし受け入れ力」があるのです。繁忙期を迎える夏は、観光業に従事する市民のご負担は大きくなりますが、「鳥羽市は京都市よりおもてなし上手」と言えるパワーを秘めています。

もちろん少子高齢化が進めば、日本全体の人口減、観光

客減、鳥羽市民減も予想されますが、観光客受け入れに対応するパワーが既に鳥羽にはあるのです。もっと効率的に、もっと稼げるまちになる可能性を秘めています。

漁業では私が言つまでもなく「鳥羽の海は、広大な森林を背後に持つ木曾三川などのミネラル豊富な伊勢湾の海水と、熊野灘を北上する黒潮の潮流がぶつかり合う好漁場であり、豊かな水産資源に恵まれた世界に誇れる海」です。人口減少に伴う後継者不足や海洋環境の変化への対応など、これから解決すべき課題は多々ありますが、「眼前に広がる海は、ほかでは得がたい恵まれた海」であることには変わりません。他市にはないポテンシャルを持つ鳥羽市ならば、きつと豊かに暮らせる」たくさん稼げるまちは実現するはずですよ。

恵まれたまちの力をこれからどう伸ばしていくか、知恵の絞りどころだと思います。



新鮮なエビはなによりのご馳走。「伊勢エビに負けてないよ」は嘘ではなかった!

とばびと  
活躍  
プロジェクト

## トバゴト

Vol.17



トバゴトQRコード

健康福祉課長寿介護係  
(生活支援コーディネーター 杉浦徹)

☎(25) 1186

### キーワード

#スマートフォン教室  
#安楽島どーい

令和4年6月19日、安楽島公民館で高齢者向けのスマートフォン(以下スマホ)教室が開催されました。

このスマホ教室は鳥羽市健康福祉課の地域生活推進事業の一つであり、令和4年度は実証実験の一部の地域でのみ実施されます。今回のスマホ教室では、鳥羽市・民間の通信事業者・安楽島の市民団体「どーい」の3者が協働することによって開催に至りました。

今や生活のさまざまな場面に欠かせなくなってきたスマホですが、高齢者にとつて、1回1時間のスマホ教室だけでは使いこなせる様にはなりません。だからこそ、困った時に相談できる人が身近(地域)にいること、そしてサポートしてもらえる体制があることが大切なポイントになります。安楽島では、その大切な役割を「どーい」メンバー

が担うからこそ、開催の実現に向けて一歩を踏み出すことが出来ました。

今回の安楽島での第1回スマホ教室では、13人の参加者が一つ一つ丁寧に、驚きと喜びを感じながらスマホを操作している様に感じました。今後も事業の実証実験として、1か月に一度のペースでスマホ教室を継続する予定です。

「どーい」メンバーは当日のスマホ教室の様子をみて、自分たちでもできる事をしようと、毎月15日の寄り合い時にスマホ教室を別枠で開催していく事を決めました。「地域の力」や「地域共生社会」の実現は、自分たちでやるからこそ強く・魅力的になつていくと感じました。



当日の様子



どーい独自教室の案内